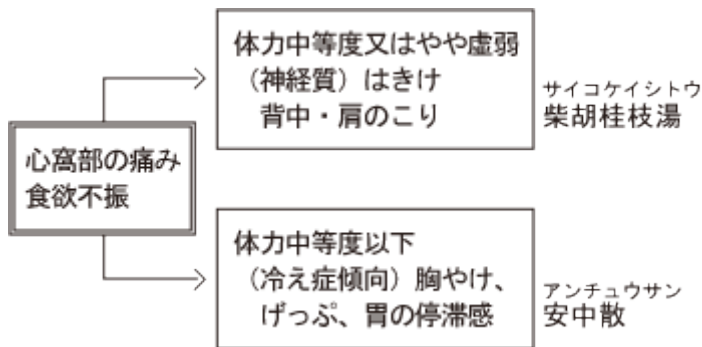


1. ストレス胃による胃痛の症状

ストレス胃(神経性胃炎)では、上腹部・みぞおち付近(心窩部)に違和感や痛みを感じます。上腹部(心窩部)の痛み(胃痛)に用いる主な処方方は、**柴胡桂枝湯**(サイコケイシトウ)と**安中散**(アンチュウサン)です。**芍薬甘草湯**(シャクヤクカンゾウトウ)を頓服で服用する場合があります。



2. ストレス胃の胃痛と柴胡桂枝湯

胃や腹が痛み、吐き気、食欲不振、肩こりを伴うストレス胃には**柴胡桂枝湯**が用いられます。

- 神経質傾向の人に適する理気薬の柴胡(サイコ)と桂皮(ケイヒ)、
- 上腹部痛や肩や首筋の筋肉の緊張を軽快する芍薬(シャクヤク)と甘草(カンゾウ)などストレス胃の症状を軽減する生薬で構成されています。(抗炎症作用のある黄ゴンを除く)

3. ストレス胃の胃痛に芍薬と甘草

ストレス胃の痛みは、胃の筋肉が緊張し血流が少ないという警告反応です。また胃が痛むと心窩部や肩の筋肉が緊張し、こりや痛みを伴います。このような筋肉の緊張を弛緩させる作用のある生薬が芍薬(シャクヤク)です。

芍薬は腹痛や腹満(腹部のガス膨満感)を改善する漢方薬で、甘草と組み合わせて用いられます。その代表的な処方が芍薬甘草湯(シャクヤクカンゾウトウ)です。

柴胡桂枝湯にはこの芍薬と甘草の組み合わせが含まれています。

4. ストレス胃の胃痛に安中散

ストレス胃の心窩部の痛みや腹痛に悩み、胃弱で(甘い物を好み)冷え症気味の人には**安中散**(アンチュウサン)が用いられます。処方名は「中(胴体の中央部、おなか)」を安らかにする」という意味です。胃の停滞感、胸や上腹部の張り(気滞:キタイ)と空腹時に痛み、ゲップを伴う時に適します。

安中散は西洋薬の芳香性健胃薬に相当します。配剤生薬の中に桂皮(ケイヒ:シナモン)、茴香(ウイキョウ:フェネル)、縮砂(シュクシャ)、良姜(リョウキョウ)などの香辛料(スパイス・ハーブ)があります。これらは理気薬です。

本方の鎮痛効果には甘草に加えて延胡索(エンゴサク)が関与しています。